

## 里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	多様な主体の連携・協働
手法名	フクロウの営巣ネットワークによる保護活動
主体	特定非営利活動法人グランドワーク西怒鬼・フクロウの営巣ネットワークプロジェクト
背景(地域の課題)	<p>里地里山の生態系の頂点の一つに位置づけられるフクロウの生息環境が悪化している。餌となる生き物の減少や、農村近傍のフクロウが林間を飛翔するのに容易でかつ樹洞のある巨木が存在する森が減少しており、営巣環境の創出が求められている。</p>
手法／方策の詳細	<p>(1)フクロウの営巣環境改善の取り組みー巣箱の設置ー フクロウの営巣環境を整えることが、保護の第一歩であるため、森林保全整備(フクロウが林間を飛翔できるよう適正な間伐等の手入れを行う)、樹洞のある巨木の保護(フクロウの営巣場所を確保するという事)を行っている。 また、樹洞のある巨木が少なくなっている現状から、フクロウ営巣のための専用の巣箱を作り設置している(図1)</p> <p>(2)営巣地周辺の餌場環境整備 生態系に配慮した土地改良事業により創出された田園環境をフィールドにフクロウの餌場作りにもつながら農村集落の生き物保全活動を実施。フクロウの巣箱設置を行いながら、農村地域の水辺の保全と森林保全を行うことで良好な生息環境を作り出している(図2)。 また、フクロウの保護だけでなく、フクロウをシンボルにした産品開発やブランド化を図るなどの地域づくりにもつなげている(図3)</p> <p>(3)各地のネットワーク作りと保護増殖手法の試行実践と蓄積 取り組みを地域内だけにとどめず、広く発信することで、奈良支部、足利支部、南那須支部など各地に支部組織を広げつつあり、それぞれの地域で取り組み段階に応じた保護増殖の技術的・実践的な知見が蓄積されつつある。</p>
手法・技術的視点	<p>(1)営巣環境の創出をテーマに多様な里地里山保全活動を展開 里地里山生態系の頂点に位置するフクロウの保護をテーマに据えることで、里山、水辺、農村集落等、地域の多様な場所で一体的な保全活動の展開を惹起し、取り組みを広げている。</p> <p>(2)保護保全活動を地域づくり活動へも波及 生き物保護保全という観点だけでなく、生き物をシンボルにした産品開発やブランド化等、経済的効果までを視野に入れた地域づくりが仕込まれている。</p> <p>(3)シンボルとなる生き物を軸に里地里山にかかわるファン層を拡大 フクロウの保護を掲げながら各地域特性や取り組み段階に応じて各地に活動ネットワークを展開させるとともに、里地里山活動にかかわるファン層を広げる効果を生んでいる。</p>

